

リフレクションカード 2023年度後期

学科	助産別科
氏名	前田 幸

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
母子の心理・社会学	1	前期	必修	いいえ	16

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	○	×	○	×	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	本科目は助産別科の基礎科目に位置づけられている。前半は周産期の心理、マタニティサイクルの心理的特性、母性・父性の意識と親役割の獲得と関係の形成、マタニティサイクルにおけるメンタルヘルスの重要性と課題について解説した。後半は社会学的側面から、現代社会における女性や子ども・家族を取り巻く特徴や課題、支援方法について解説した。講義終了後に講義の感想および質問を提出してもらい、質問に関しては次回の講義で解説した。
--	---

4. 学生の目標達成状況について

（1）教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	達成された	達成された		達成された		
（2）上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差，S，A，B，C，Dの度数），独自に設けた基準による達成度，学生の授業評価アンケートの結果など，できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」，「学習到達度の自己評価」，「学習量の評価」，「学修のための情報利用」，「図書館，インターネット利用」，自由記述の意見など	成績の平均値は82.6（±5.87）であり、昨年度の数値83(±6.10)と比較すると、ほぼ同様の成績であった。講義の際に質問などもあり、意欲の向上に寄与したと考えられる。本科目の目標は達成できたと考える。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価	
DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	①CP、カリキュラムマップ上の位置づけからみでの内容的妥当性 本科目は助産の理論領域に位置する基礎科目であり、必須である。その内容は、学科のDP1、DP3に対応している。専門科目につながる学習の基盤であり、内容的には助産師として必要な知識である。内容的には妥当であったと考える。 ②DP、行動目標からみでの内容的妥当性 本年度のカリキュラム改正に伴い、本科目は助産の理論領域に位置する基礎科目であり、助産師として必要な知識・理解、関心・意欲を有する科目である。ほぼ全員が欠席することなく、受講できていた。また、成績においてもほとんどの学生が、標準レベルに達しており、内容的には妥当であったと考える。 以上のことから、内容的に妥当であると考え。
6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	本科目は助産別科の中では基礎科目に位置づけられており講義の形式をとっている。親役割や母子関係・父子関係のプロセス、ライフサイクル各期の発達過程、周産期における女性と家族の心理、社会的側面から現代社会における女性や子ども・家族を取り巻く特徴や課題、支援方法など教授するテーマは多岐にわたっているため、授業時間内に学生同士の話し合いの時間や質疑応答の時間を設けることは難しかった。昨年度よりカリキュラムを改正し、周産期におけるメンタルヘルスがより一層重要視されていることから、心理学・社会学の両側面から母子を取り巻く状況や支援について学修できるように工夫をした。今後も世の中の状況に合わせた授業内容にしていきたい。
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	成績や学生の到達度に関する自己評価から、本科目の目標はある程度達成できたと考えられる。本授業は、オムニバス方式の講義である。各担当との連携をとりながら、より学生が学びを深めることのできる授業を目指したい。

リフレクションカード 2023年度後期

学科	助産別科
氏名	杉浦 絹子

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
助産学研究演習	1	通年	必修	いいえ	16

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	×	○	○	○	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	本科目は通年の必修科目である。助産実践上の問題を明確にし、研究課題として発展させ助産実践に役立てるための基礎的な研究能力を養うことを目的に、前半の授業回では助産学領域で適用される理論や根拠に基づいた助産実践を実証するための研究方法を解説し、後半の授業回では、各学生が興味・関心のあるテーマについて文献を検討し、研究計画を立案し、最終回で研究計画を発表・共有した。
--	--

4. 学生の目標達成状況について

（1）教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	達成された		達成された	達成された	達成された	
（2）上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	成績評価は、Sが2名、Aが13名であった。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価	
DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	回答者が受講生15名中1名のみであったため、本アンケート結果は受講生全体のリアクションを反映しているとは言えない。
6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方策を簡単に示してください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示ください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	回答者は15名中1名のみであったため、受講生全体のリアクションを把握することはできないが、1名の回答には授業に対する意見の記述はなかった。
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお示ください。	回答者が1名のみであったことから、授業アンケート実施時期を含む実施方法等について、回答率が高まる方法を担当部署とともに検討する。

リフレクションカード 2023年度後期

学科	助産別科
氏名	杉浦 絹子

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
キリスト教と生命倫理	1	通年	必修	いいえ	16

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	○	×	○	○	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	本科目では、キリスト教的人間観と世界観、出生前診断、生殖補助医療、分娩様式の選択に関連した倫理的課題等、周産期医療に関わる倫理的課題について解説し、倫理的課題に対する助産師の役割について、他者との価値観の相違も踏まえ考察することを目的とし、毎回の授業において、グループ討議、全体討議の機会を設けた。
--	--

4. 学生の目標達成状況について

（1）教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	達成された	やや達成された		達成された	達成された	
（2）上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差，S，A，B，C，Dの度数），独自に設けた基準による達成度，学生の授業評価アンケートの結果など，できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」，「学習到達度の自己評価」，「学習量の評価」，「学修のための情報利用」，「図書館，インターネット利用」，自由記述の意見など	各授業での討議の機会では、実習で遭遇した事例とも結びつけて考察されており、洞察に富む意見もみられた。成績評価は全員がAであった。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価	
DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	回答者が受講生15名中1名のみであったため、本アンケート結果は受講生全体のリアクションを反映しているとは言えない。
6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	回答者は15名中1名のみであったため、受講生全体のリアクションを把握することはできないが、1名の回答には授業に対する意見の記述はなかった。
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	本科目は通年科目であり、開始は4月、終了は1月下旬であった。最終授業日が国家試験日の前週であったことも回答者が1名のみであったことと関連している可能性がある。次年度は、授業アンケート実施時期を含む実施方法等について、担当部署とともに検討する。

リフレクションカード 2023年度後期

学科	助産別科
氏名	前田 幸

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
助産診断・ケア学Ⅱ(分娩期)	1	前期	必修	いいえ	16

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	○	○	○	○	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	①本科目は助産別科のカリキュラムにおいて、助産の実践領域の専門科目に位置付けられている。安全・安楽なマタニティサイクル支援として、必須科目であるとともに資格取得に必要な科目である。専門職を目指す者として意欲・関心を持って講義・演習に臨む姿勢が求められる。 ②本科目は、母性看護学の知識をベースにして、助産の専門的知識が必要となるため、スムーズに講義に入れるように事前に予習を提示し、講義に臨むよう促した。学生自身が自ら考え、意欲・関心が持てるようにDVD視聴や模型を使用し、主体的に個人やグループで考える機会を取り入れるなどの工夫をした。演習に関しては、演習内容を事前に提示し、学生が自己学習を行ったうえで臨めるように工夫した。産婦人科診療ガイドラインや助産業務ガイドラインを中心に臨床での基準にそって、また科学的根拠を持って、技術を習得できるよう意識づけを行った。 ③実習において必須である、分娩介助などの助産診断に伴う技術に関しては、学生の理解度を確認しながら進めていった。具体的にイメージができるよう基本技術に加え、デモストや事例を用いて演習を組み立てて取り組んだ。
--	---

4. 学生の目標達成状況について

（1）教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	達成された	達成された	達成された	達成された	達成された	達成された
（2）上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	①最終的な成績の平均値は75点（±7.9）でありばつきは大きくなかった。7名の学生が理想的レベル（概ね80点以上）に達しており、4名の学生が標準レベルに達していた。昨年度と比較しても大きな変化はなかった。DPの目的別にみると、平均点から知識・理解に関しては73%、思考・判断に関しては70%の達成度であった。小テストを取り入れ、解説を提示するなど、知識理解が定着するように工夫した。また、技能表現に関しては、分娩進行の情報を捉え、アセスメントを行い必要なケアを考え、実施するという一連の流れの演習を取り入れることで、実際の臨床に近い形で技術の習得に努めた。内容的に専門的知識と思考判断を統合していく難しさもあったが、学生が意見交換を行うことで共通の理解を得られたと考える。幅広い知識と思考判断・技能表現の修得には、経験と時間を要するため、今後の実習などを通してより深めて行くことを期待する。 ②学生の授業における態度は、すべての学生が真剣に取り組んでいた。ただ、学生の意見として授業の質の評価において、説明は理解しやすいものだったか、との問いにおいて、そうでないと思うとの意見もあったため、今後は、学生自身が自分の知識を身につけ、自信を持って、演習に取り組めるよう細やかなサポートを行っていく必要があると考える。全体的な評価として、各学生が意欲的に学習に取り組むことができたのではないかとと思われる。その結果、教育目標は達成レベルであった。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価	
DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	①CP、カリキュラムマップ上の位置づけからみでの内容的妥当性 本科目は「助産実践領域」のなかの「専門科目」であるが、より専門的で高度な知識と技術を身につけることが必要とされることから、知識理解、思考判断のほか技能表現、態度も含めた総合的な力が必要である。一定の成績をおさめていることから、内容的には妥当であったと考える。 ②DP、行動目標からみでの内容的妥当性 DPすべてにおいて標準レベルに達していたことから、内容的には妥当性であったと考える。 以上のことから、内容的に妥当であると考え。
6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	短期間で集中的に行われる授業であり、学生が関心を持って意欲的に目標に向かって取り組めるよう、他教科との課題の調整や科目間の関連性を考慮して、進めていった。引き続き同様の形式で授業を進めていきたいと考える。また、学生個々の理解度なども確認したうえで、助産ケアに必要な援助技術を習得できるように援助していきたい。
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	本科目は助産の実践領域の中核となる専門科目である。授業成績や授業評価アンケートより、概ね標準レベルが達成できているといえる。短期間で集中的に行われる授業の中で、学生は真面目に授業に取り組むことができていた。さらに、学生の思考判断や技能表現が向上していけるように課題を含め、講義・演習の内容等の工夫をしていきたい。

リフレクションカード 2023年度後期

学科	助産別科
氏名	古賀 玉緒

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
助産診断・ケア学Ⅳ(新生児・乳幼児)	1	前期	必修	いいえ	16

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	○	○	○	○	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	本科目は他の助産診断・ケア学同様、臨地実習を前に 短期間で集中して開講される。 講義内容については、褥婦や新生児をイメージしたうえで母子一体の看護の根拠や技術を理解することを意図し、身体的特徴や生理についての理解を視覚的に深めることを目的にDVD教材の活用、模型を使用した技術演習を取り入れた。さらに、個々で新生児の特徴的な生理機能についてまとめ、それぞれがまとめた内容を発表し、意見交換を行うことで知識や思考が深まるよう工夫した。なお、病態生理や疾患、看護については、より専門性の高い授業を提供することを意図し、学内の小児領域教員や外部講師として小児科医師やNICU看護師に講義を依頼した。
--	--

4. 学生の目標達成状況について

（1）教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	達成された	達成された	達成された	達成された	達成された	達成された
（2）上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差，S，A，B，C，Dの度数），独自に設けた基準による達成度，学生の授業評価アンケートの結果など，できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」，「学習到達度の自己評価」，「学習量の評価」，「学修のための情報利用」，「図書館，インターネット利用」，自由記述の意見など	最終的な成績の平均値は84点であり、全員が理想的レベルに達した。 DP別にみると、知識理解71%、思考判断83%、関心96%、態度100%、技能表現85%であり、すべて標準レベルを上回っていた。 学生アンケートより回答者からは「自分なりの目標を達成した」「知識を確認、修正したり、新たに得ることができた」「課題を検討する力をえることができた」「必要となる技術を身に着けることができた」など、目標が達成できたことや的確な判断力を身につけたことを実感できており、予習復習の時間も確保できていた。					

5. D P, C P, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価	
D P, C P, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	本科目は「助産の実践領域」のなかの「専門科目」であるが、より専門的で高度な知識と技術を身につけることが必要とされることから、知識理解・思考判断のほか技術表現・態度も含めた講義を組み立てることは引き続き必要である。D Pすべてにおいても標準レベルに達していたことや、学生アンケートの到達度自己評価でも回答者からは「自分なりの目標を達成した」という意見がみられたことから、内容的には妥当であったと考える。
6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	短期間で集中的に行われる講義であり、学生が関心を持って意欲的に目標に向かって取り組めるよう、他科目との課題の調整や科目間の関連性を考慮して講義を進めた。また、一方的な講義にならないよう、自己の学びをアウトプットして深められるためのグループワークや全体討論を取り入れた。 学生のアンケートからも、目標達成できたという回答がみられ、効果的な内容であったと考える。
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	学生全員が目標に達することができていた。短期間で集中的に行われる講義であり、学生全員が課題に取り組み知識理解力が定着し広い視野で思考判断が可能となるように、更なる工夫をしていきたい。

リフレクションカード 2023年度後期

学科	助産別科
氏名	前田 幸

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
助産診断・ケア学Ⅴ(周産期のハイリスク)	1	前期	必修		16

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	○	○	○	○	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	①本科目は助産別科のカリキュラムにおいて、助産の実践領域の専門科目に位置付けられている。安全・安楽なマタニティサイクル支援として、必須科目であるとともに資格取得に必要な科目である。専門職を目指す者として意欲・関心を持って講義・演習に臨む姿勢が求められる。 ②本科目は、助産の基礎的知識に加え、周産期のハイリスクに関連する領域であり専門的知識がより必要となる。講義前に予習ができるように、講義資料の事前配布を行った。また本科目は、臨床の現場で活躍されている非常勤講師と専任教員がオムニバスで授業を展開しており、臨床での実践がイメージできるよう組み立てている。技術演習（医師が担当）では、全学生が会陰縫合の技術を経験でき、指導が受けられるように配慮している。また、産婦人科診療ガイドライン、ハンドブックを活用し、ガイドラインに沿った学修ができるように工夫した。 ③知識理解や思考判断が助産ケアの実践に結びつくように、シュミレーション演習等を行った。また、ハイリスク実習で経験するであろう疾患を課題として提示するなど工夫した。
--	---

4. 学生の目標達成状況について

（1）教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	達成された	達成された	達成された	達成された	達成された	達成された
（2）上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	最終的な成績の平均点は76.4点（±7.69）であり、ばらつきは大きくない。5名の学生が、理想的レベル（概ね80点以上）に達しており、6名の学生が、標準レベルに達していた。昨年度と比較しても大きな差はない。「周産期のハイリスク」は、正常からの逸脱について知識を身につけ、思考し判断できることを目標としているため、講義内容の専門性は高い。母性看護学の知識を基盤に、並行して学習する助産の実践領域である専門科目「助産診断・ケア学Ⅰ～Ⅳ（妊娠期・分娩期・産褥期・新生児期）」の正常の範囲と関連付けて学習することが必要である。正常逸脱に関する学修には、予習・復習が必要であると考える。全体的な評価として、学生は意欲的に学習に取り組むことができたと考えられる。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価	
DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	①CP、カリキュラムマップ上の位置づけからみでの内容的妥当性 本科目は「助産実践領域」のなかの「専門科目」であり、必須である。学生は、一定の成績をおさめていることから、内容的には妥当であったと考える。 ②DP、行動目標からみでの内容的妥当性 ほぼ全員がまじめに授業に取り組んでいた。また、DPすべてにおいても標準レベルに達していたことから、内容的には妥当性であったと考える。 以上のことから、内容的に妥当であると考ええる。
6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	短期間で集中的に行われる授業であり、学生が関心を持って意欲的に目標に向かって取り組めるよう、他教科との課題の調整や科目間の関連性を考慮した。引き続き同様の形式で授業を進めていきたいと考える。昨年度より新カリキュラムが始まり、厚生労働省の指定規則の中でも、周産期のハイリスク分野に対する学習の充実を図るように明記されている。そのため、より一層学生の学びを援助していきたい。また、正常領域の科目の授業も並行しているため、相互に関連付けながら学習していけるよう配慮する必要がある。
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	本科目は助産の実践領域の専門科目である。また成績より、概ね標準レベルが達成できているといえる。短期間で集中的に行われる授業の中で、学生は真面目に授業に取り組むことができていた。さらに、疾患や治療など正常からの逸脱について理解するためには日々の予習・復習が必要であり、学習量を確保することは常に必要である。今後、学生が学習時間の確保ができるように他教科と調整を図るとともに、正常領域と関連付けて学習していけるよう工夫していきたい。

リフレクションカード 2023年度後期

学科	助産別科
氏名	古賀 玉緒

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
助産診断・ケア学Ⅵ(健康教育演習)	1	通年	必修	いいえ	16

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	○	○	○	○	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	本科目は、助産師として身につけておかなければならない健康教育の技術を学ぶ。健康教育を実施するにあたり周産期における母児の生理機能だけではなく、健康逸脱予防についての知識や各ライフステージにある対象の特徴をふまえたコミュニケーション能力も必要とされる。そのため、他の助産診断・ケア学などの関連する講義で得た知識を活用できるよう開講時期を工夫した。特に、助産学基礎実習に必要な妊娠期・産褥期における母児の健康教育に関しては、授業で得た成果を実習でいかすために前期に計画した。また、できるだけ実践経験を得られるよう、ロールプレイや高校における健康教育実践の機会を計画した。 学生指導においては、担当教員を決め、少人数を受け持ち、学生個々のペースに配慮した指導を心がけた。
--	--

4. 学生の目標達成状況について

（1）教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	達成された	達成された	達成された	達成された	達成された	達成された
（2）上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差，S，A，B，C，Dの度数），独自に設けた基準による達成度，学生の授業評価アンケートの結果など，できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」，「学習到達度の自己評価」，「学習量の評価」，「学修のための情報利用」，「図書館，インターネット利用」，自由記述の意見など	最終的な成績の平均値は77点であった。ほぼ半数は理想的レベルに達した。 DP別にみると、知識理解80%、思考判断71.9%、興味関心80%、態度91%、技能表現65%であり、すべて標準レベルを上回っていた。 他の科目の課題が重なっていたものの、自己の課題や本科目で得られた知識を臨床などにおいて、対象者や高校生に提供するという明確な目標があったことが学習のモチベーションを上げる原動力となり、目標達成につながったと考える。さらに、担当教員との個別的な指導の機会を設けていたことや授業の中で他の学生とのディスカッションの時間を持つことができたことも要因となったと考える。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価	
DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	本科目は「助産の実践領域」のなかの「専門科目」であるが、より専門的で高度な知識と技術を身につけることが必要とされることから、知識理解・思考判断のほか技術表現・態度も含めた内容は必要であるが、DPすべてにおいても標準レベルに達していたことから、内容的には妥当であったと考える。
6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	学生がある程度の関心を持って意欲的に目標に向かって取り組めるよう、科目間の関連性や講義の順序を考慮して講義を進めてきた。学習中もほぼ全員の学生が予習や復習を行っており、効果的な内容であったと考える。 さらに、技術演習やディスカッションなど実践的に行えたことで、意欲が高まっていったのではないかと考える。
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	学生全員が目標に達することができていた。今後も、学生のペースを配慮した指導を心がけ、学生全員が知識や思考判断を伴った健康教育技術を修得できるよう取り組んでいきたい。なお、次年度もコロナ禍の影響を受け、臨床経験が少ない可能性が高い学生であると思われることから、より思考・判断能力を活用した技術演習を実施できるよう工夫をしていきたい。

リフレクションカード 2023年度後期

学科	助産別科
氏名	杉浦 絹子

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
助産診断・ケア学Ⅶ(助産過程演習)	1	通年	必修	いいえ	16

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP 1)	思考判断 (DP 2)	意欲関心 (DP 3)	態度 (DP 4)	技能表現 (DP 5)
	○	○	○	×	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	本科目は必修科目である。助産学実習に向け、助産過程のプロセスについて基盤となる知識を全体講義で教授したうえで、仮想事例を基にしたペーパーシミュレーションによる個人ワークに取り組み、その成果を持ち寄り、グループワークを通して完成度を高めていった。グループワークにおいては、2～3名を1グループとし、1グループにつき1名の教員がファシリテーターとなるPBLチュートリアルを実施した。
--	--

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP 1)	思考判断 (DP 2)	意欲関心 (DP 3)	態度 (DP 4)	技能表現 (DP 5)
	やや達成された	やや達成された	やや達成された	やや達成された		
(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	成績評価は、Sが5名、Aが4名、Bが5名、Cが1名、平均値は80.9(±9.7)点、66～94点であった。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価	
DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	回答者が受講生15名中1名のみであったため、評価は受講生全体のリアクションを反映しているとは言えない。
6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	回答者は15名中1名のみであったため、受講生全体のリアクションを把握することはできないが、1名の回答には授業に対する意見の記述はなかった。
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	本科目の最終授業日と授業アンケート回答入力時期に乖離があったことが、回答者が1名のみであったことと関連している可能性がある。授業アンケート実施時期を含む方法等について、回答率が高まる方法を担当部署とともに検討する。

リフレクションカード 2023年度後期

学科	助産別科
氏名	杉浦 絹子

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
助産管理学	1	通年	必修	いいえ	16

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	○	○	○	×	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	本科目は、助産師国家試験の受験に必須の科目であり、助産所の開設・運営・管理、および産科医療施設における病棟管理に関する知識を修得すること等を目的として、授業内容を構成した科目である。関連法規・制度、政策、組織論、医療安全等を含み、概念的な内容の深い理解を促すために、事例や映像を用いて解説した。さらに、学生どうしのグループ討議、全体討議の機会を設定し、多角的な視点から考察するよう促した。
--	---

4. 学生の目標達成状況について

（1）教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	達成された	達成された	達成された	達成された		
（2）上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	成績評価はSが6名、Aが7名、Bが2名、平均値は87.8(±5.9)点、78～97点であった。授業中のグループ討議、全体討議では、実習での経験等を織り交ぜながらテーマに関して多角的な視点から意見交換がなされた。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価	
DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	回答者が受講生15名中2名のみであったため、本アンケート結果は受講生全体のリアクションを反映しているとは言えない。
6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方策を簡単に示してください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	回答者は15名中2名のみであったため、受講生全体のリアクションを把握することはできないが、2名の回答には授業に対する意見の記述はなかった。
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお願いします。	本科目は通年科目であり、開始は4月、終了は2月であった。最終授業日は国家試験日の翌週であったことも回答者が2名のみであったことと関連している可能性がある。次年度は、授業アンケート実施時期を含む実施方法等について、担当部署とともに検討する。

リフレクションカード 2023年度後期

学科	助産別科
氏名	伊藤 直子

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
地域母子保健	1	前期	必修	いいえ	16

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	○	○	○	○	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	本講義は、助産師として地域で母子保健を推進するうえで必要な母子保健行政の仕組みや制度、社会資源、保健医療福祉関係職種との連携等について、最近の動向を踏まえ、グローバル社会における今後の活動を展望する講義内容として計画している。本科目の意義を理解し、地域母子保健における意欲関心を深めていくことが必要である。
--	--

4. 学生の目標達成状況について

（1）教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	やや達成された	やや達成された	やや達成された	達成された	やや達成された	
（2）上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差，S，A，B，C，Dの度数），独自に設けた基準による達成度，学生の授業評価アンケートの結果など，できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」，「学習到達度の自己評価」，「学習量の評価」，「学修のための情報利用」，「図書館，インターネット利用」，自由記述の意見など	最終的な成績の平均値は、79.5（84.5）点であり、再試対象者はいなかった。標準的レベルに達した学生が100（100）％であり、内、理想的レベルに達した学生は、33.3（87.5）％であった。今年度は、昨年度の学生に比べ、理想的レベルに達した学生が減少している。その要因として考えられるのは、常々助産別科の学生は授業参加態度が主体的で議論も活発に行われていたが、今年度の学生に対し、主体的参加を促す試みが従来の教育方法では効果が得られにくかったことが考えられる。今後、対象の学生の状況を踏まえ、授業展開の検討が重要と考えられる。 目標別にみると、知識理解に関しては77.7（80.3）％、意欲関心に関しては85.5（86.3）％、態度に関して80.0（100）％であった。成績の平均値は、前年度より下がっている。助産師としての地域母子保健を推進するうえでの意義については、今年度も学生の理解は概ね得られていると考えられるが、さらに全員の学生が十分理解し、授業にも関心をもって参加する状況に改善していきたい。 学生の到達度自己評価においては、授業評価アンケート回答者が4名と少なく、分析の参考とするには難しい。全学生が授業評価アンケートに答える仕組みの改善が望まれる。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価	
DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	DP・CPカリキュラムマップ上の位置づけからみての内容的妥当性 本科目は、知識理解、意欲関心、態度に位置付けられた科目である。いずれも約8割の学生が達成していることから内容的には概ね妥当であるとする。今後は、学生の主体的学習を促す教育方法を積極的に取り入れることによる授業効果を上げる授業内容の精査に努めたい。
6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	授業評価アンケート回答者が少数であるため、自己評価は難しいので、今後も学生が授業の質を高く評価できる授業運営に努めたいと考える。
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	本科目の達成状況については、授業成績より計画している状況は概ね達成できていると評価できる。 さらに、授業内容を精選に加え、学生の授業参加への仕組みを検討し、小人数の講義であるため受講学生全員の達成状況が理想的レベルに達するよう検討を加えていきたい。

リフレクションカード 2023年度後期

学科	助産別科
氏名	杉浦 絹子

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
子育て支援論	1	通年	必修	いいえ	16

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	○	×	○	×	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	本科目は、乳幼児の子育て支援に携わる助産師として、子育て中の養育者の疑問に対応する知識と態度を習得すること、および、北九州市をはじめ国内で子育て支援に力を入れている自治体の子育て支援施策について把握し、これからの地域における子育て支援のあり方について考察することを目的とした。 前者については授業の7回目で、乳幼児を養育する保護者の多くが抱く子育てに関する疑問に対する回答・対応について月年齢別に担当学生を決めて調べ、発表、学生間で共有し、討議した。後者については授業の8回目で、子育て支援に力を入れている全国の自治体について、1学生が1自治体について調べ、発表、学生間で共有し、討議した。授業の第1回から第6回では、助産学実習および第7回、第8回のPBL課題の遂行に役立つ子育て支援の基礎的知識を教授した。
--	--

4. 学生の目標達成状況について

（1）教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	達成された	達成された		達成された		
（2）上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	成績評価はSが2名、Aが13名であった。第7回、第8回の個人課題の発表では、助産学実習での経験も踏まえた考察がなされており、討議は活発に行われ、目的を達成できたと考える。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価	
DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	回答者が受講生15名中1名のみであったため、本アンケート結果は受講生全体のリアクションを反映しているとは言えない。
6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	回答者は15名中1名のみであったため、受講生全体のリアクションを把握することはできないが、1名の回答には授業に対する意見の記述はなかった。
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	本科目は全8回の通年科目であり、開始は5月、終了は1月であった。授業評価アンケート実施は国家試験日の翌週であったことも回答者が1名のみであったことと関連している可能性がある。次年度は、授業アンケート実施時期を含む実施方法等について、担当部署とともに検討する。

リフレクションカード 2023年度後期

学科	助産別科
氏名	稲木 光晴

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
母性の運動科学	1	前期	必修	いいえ	16

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	○	×	×	×	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	妊婦運動の効果に関する研究は、数多くなされてきており（特に海外において）、授業においては、最新の研究結果をより多く紹介することによって、学生の興味・関心を引きつけられるようにした。 昨年度までと同様、毎回の授業において理解度チェックを行うと同時に、質問を受け付けることによって、学生の理解度を把握し、理解が不十分であったと思われる事柄については次回の授業で説明を行った。
--	---

4. 学生の目標達成状況について

（1）教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	やや達成された	やや達成された				やや達成された
（2）上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差，S，A，B，C，Dの度数），独自に設けた基準による達成度，学生の授業評価アンケートの結果など，できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」，「学習到達度の自己評価」，「学習量の評価」，「学修のための情報利用」，「図書館，インターネット利用」，自由記述の意見など	最終的な成績の平均値は85.0（±2.9）点であった。成績分布別にみると、全員が89～80点の範囲内にあり理想的レベルに達していた。 授業評価アンケートに回答した9名の学生による到達度自己評価をみると、「自分なりの目標を達成できた」では、「わりにそうだと思う」が5名（55.6％）、「まあまあそうだと思う」が4名（44.4％）とすべての学生が肯定的に捉えていた（平均値3.6）。 「知識・理解（DP1）」に関する学生の到達度自己評価（質問項目2と3）については、「かなりそうだと思う」が1名（11.1％）、「わりにそうだと思う」が4名（44.4％）と5名（56.6％）「まあまあそうだと思う」が4名（44.4％）と3名（33.3％）と、すべての学生が肯定的に捉えていた（平均値3.7～3.8）。 「技能・表現（DP5）」に関する学生の到達度自己評価（質問項目7と8）については、「かなりそうだと思う」が1名（11.1％、質問項目7）、「わりにそうだと思う」が5名（55.6％）と3名（33.3％）、「まあまあそうだと思う」が3名（33.3％）と5名（55.6％）、「少しそうでないと思う」が1名（11.1％、質問項目8）であり、ほとんどの学生が肯定的に捉えていた（平均値3.2～3.8）。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価	
DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	本科目はDP、CP、カリキュラムマップの位置づけからみて内容的に妥当であるとする。
6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	学生による授業の質評価は、すべての項目とも平均値が3.1～3.8であったことから、授業の進め方は概ね良かったと考える。 学習量の評価についてみると、1回30分程度以上の予習を行った学生の数（割合）は、6回が2名（22.2%）、4,5回が1名（11.1%）、1回が1名（11.1%）、0回が5名（55.6%）であった。1回30分程度以上の復習を行った学生の割合は、6回が7名（77.8%）、1回が1名（11.1%）、0回が1名（11.1%）であった。 また授業課題以外の学習については、6名（66.7%）の学生の取り組んでいなかった。学生の学習意欲をさらに高める工夫をする必要がある。
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	目標は概ね達成できたと考える。 今後の課題としては、定期的に予習・復習を行う学生、また授業課題以外の学習に取り組む学生を増やすために具体策を考えることである。